

日本銀行本店本館を舞台に ドラマ撮影

▼二〇一五年五月に、国の重要文化財である日本銀行本店本館で、ドラマ撮影が行われました。

▼このドラマは、明治から昭和初期に活躍した高橋是清（一八五四～一九三六）の生涯を描いたものです。高橋是清は、留学先の米国で騙されて奴隷契約を結ばされたり、ペルーの銀山開発事業に失敗して一文無しとなったりもしますが、最後には、



ドラマ「経世済民の男 高橋是清」NHK総合で二〇一五年八月に放映済みの撮影の様様（総裁役のオダギリジョーさんが日本銀行に到着したシーン）

大蔵大臣や総理大臣を歴任し、七度目の大蔵大臣の時に、二・二六事件の凶弾に倒れる波瀾万丈の生涯を送ります。

日本銀行との関係では、失意の中、ペルーから帰国したところで、当時建築中であり、今回の撮影の舞台ともなった日本銀行本店本館の建築事務主任を任されることとなります。その後、その実力を認められ、日本銀行副総裁、総裁へと、活躍の場を広げていきました。

▼日本銀行のドラマ撮影協力は、近年では、昨春に続いて二度目となりました。今後も、ドラマを通じて、皆さまが、日本銀行に親しんでいただけなら幸いです。

二〇一五年 国際コンファランスを開催

▼日本銀行金融研究所では、六月四日・五日に、日本銀行本店にて、二〇一五年国際コンファランスを開催しました。

一九八三年の第一回以来、各回のコンファランスでは、著名な学者や中央銀行幹部等を招待し、わが国や世界経済がその時々直面していた



黒田総裁の開会挨拶

問題を取り上げ、その実態や背景を金融政策運営のあり方に関連づけて議論してきました。

▼二回目となる今回のコンファランスのテーマは、「金融政策…効果と実践」でした。学界、中央銀行、国際機関から参加した約九〇名の有識者が、テーマに沿ったさまざまな論点について意見交換を行い、交流を深めました。

▼黒田総裁の開会挨拶では、中央銀行が現在直面している課題が挙げられ、課題克服に向けた前向きな姿勢と確信の重要性が述べられました。伊藤隆敏教授（コロンビア大学兼政策研究大学院大学）が座長を務めた政策パネル討論では、中曽副総裁を含む中央銀行関係者等がパネリスト

を務め、開会挨拶で挙げられた課題や、近年注目を集めている「長期停滞論」について、参加者を交えた活発な議論が行われました。また、中央銀行エコノミストや学者による五つの論文報告セッションがありました。最後は、アイケングリーン教授（カリフォルニア大学バークレー校）による長期停滞論に関する「前川講演」（金融研究所発足時（一九八二年）の総裁・前川春雄氏にちなんで名付けられています）で締めくくられました。

▼当日の様様については、金融研究



学界、中央銀行、国際機関から、約90名の有識者が参加

所の機関誌『金融研究』等で公表予定です。詳しくは金融研究所HPをご覧ください。
<http://www.imes.boj.or.jp/index.html>

広島支店は開設二一〇周年を迎えました

▼日本銀行広島支店では、支店開設二一〇周年（一九〇五年九月一日出張所開設）を記念して、八月二十日（木）～九月一日（火）に「日本銀行広島支店開設二一〇周年記念展」を、被爆建物として現在も保存・活用されている「旧日本銀行広島支店（二代目営業所）」において開催しました。本年が被爆七〇周年の年であることもあって、多数の市民の方



金田一支店長による講演。最近の金融経済情勢や本行の政策について解説しました



旧営業所での記念展示。開設から今までの110年間の広島支店の歩みの他、日本銀行の業務について紹介しました

地元メディアにご来場いただきました。

▼記念展示では、広島支店が開設された経緯や大正時代から昭和初期の広島金融界の状況の他、一九四五年八月六日の被爆時とその二日後の八日には市内二金融機関と共同で広島支店において営業を再開した模様について、金融研究所保管資料とともに紹介しました。

また、「建物からみた日本銀行広島支店の二一〇年」と題し、広島支店初代営業所、二代目営業所建物の特徴、被爆建物としての歴史を、建物案内も行いながら文書局技師が解説しました。同講演には、多くの建築の専門家が出席されました。あわせて、設計者である辰野金吾（日本銀行本店本館や東京駅を設計）やそ

の弟子の長野宇平治（日本銀行本店旧館の他多くの支店を設計）の業績を紹介しました。

さらには、銀行券、経済調査および業務全般をテーマに、日本銀行の機能と役割について説明し、最終日には、金田一弘雄（きんたいこうお）広島支店長が「最近の金融経済情勢と金融政策について」と題する講演を行いました。

▼また、期間中、広島県金融広報委員会が、横浜国立大学西村隆男教授を講師に「金融教育講演会」を開催し、多くの教育関係者が参加された他、「知るぼると親子セミナー」では、銀行券一億円、小判、千両箱（いずれもレプリカ）などにも触れていただき好評でした。

▼広島支店は、これからも広島県における中央銀行の拠点として、地域経済の発展に貢献していきたいと考えています。

「日銀夏休み子ども特別見学会二〇一五」を開催

▼「日銀って何をしているところ?」そのようなお子さまの好奇心にお応えするため、日本銀行本店では、七月二十七日（月）～三十一日（金）に「日銀夏休み子ども特別見学会

二〇一五」（協力：金融広報中央委員会）を開催しました。

▼はじめに、日銀の役割や仕事について知っていただくため、紹介ビデオを見ていただいた後、国の重要文化財に指定されている本館や実際に窓口業務を行っている新館営業場な



10kgの1億円パック（模擬券）、重かったかな



お札には、偽造防止のためにたくさんの工夫が施されています



特別議長の黒田総裁と金融政策について議論(撮影:野瀬勝一)



模擬金融政策決定会合を体験した中学生の皆さん、黒田総裁を囲んで(撮影:野瀬勝一)

どを見学していただきました。

▼小学校四年生～中学生のお子さまと保護者の方向けの体験学習では、一億円の重さを体験したり、お札の数え方や偽造防止技術について学んでいただきました。

親子の皆さまからは、「お札に隠されている工夫を探すのが楽しかった」、「普段何気なく使っているお金について、子どもと一緒に学習でき、貴重な経験となった」などの感想をいただきました。

▼また、中学生を対象に、ご好評により今回で三回目となる「金融政策を決めるのは、君だ！」を実施しました。

「都市部の地価に一部上昇の動き」などの架空のニュースをもとに、景気への影響などとそれを踏まえた金融政策を、グループごとに議論していただきました。各グループの代表者が意見を持ち寄り円卓に着席すると、黒田東彦総裁が登壇し議決に飛び入り参加しました。各グループの議論の結果を聞いたうえで、実際の決定会合と同様に議決を取り、金融政策を決定しました。

参加者からは「今まで何でもないように思えたニュースも、景気に関係しているのだと分かり、これから興味を持って見ようと思った」などの声が聞かれました。



館内イメージ

▼ご好評をいただいているこちらの見学会の次の開催は、春休み期間中を予定しています。どうぞご期待ください。

貨幣博物館リニューアルオープンのお知らせ

▼日本銀行金融研究所貨幣博物館では、お金に関するさまざまな資料を収集・保管し、その調査研究を進めながら、広く公開しています。二〇一五年初からリニューアル準備のため一時休館していましたが、二〇一五年十一月二十一日(土)、

装いも新たに開館する運びとなりました。

▼館内では、新しい研究成果を踏まえた展示から、楽しい体験展示、記念撮影スポットまで、親しみやすく、分かりやすく、どなたにも楽しんでいただけるような取り組みがいくつかあります。珍しいお金や関係する資料について、以前より見やすくなった新しい展示ケースで、じっくりとご覧いただけます。

▼貨幣博物館は、入館無料で、東京や日本橋でのショッピングや観光の機会に合わせて、どなたでも気軽にご来館いただけます。年内の土曜日には開館時間を十九時まで延長します。なお、二〇名以上の団体のご利用には三カ月前から事前の電話予約

編集後記

■この秋号を編集した時期は、猛暑が続く夏の日々でした。夏生まれの私は、多少の暑さには耐える自信があったのですが、気温が35度を超す日が何日も続いたことから、さすがにバテ気味の状態でした。今日はウナギを食べて元気を取り戻そうか、それともビタミン剤で調子を整えようかなどと思案している中、為末さんのインタビューや辻井さんの対談の原稿が次々に出来上がってきました。

それらの原稿の編集作業を進めていくうちに、為末さんや辻井さんのスポーツや音楽に対する情熱に改めて触れることができました。また、お二人が熱心にお話しされる合間に見せる素晴らしい笑顔（その素晴らしさは掲載している写真でご確認ください）を思い出し、編集が終わる頃には、気分は壮快、すっかり元気を取り戻していました。

素晴らしい人との出会いや思い出は、ウナギよりもビタミン剤よりも、夏バテに効くことが良くわかりました。さて、この秋号を読まれた方々にも、お二人のバイタリティーがうまく伝わったでしょうか？ そうであれば幸いです。ぜひ、周りの方にも為末さん、辻井さんのお話、そして「にちぎん」をご紹介いただければと思います。（高橋）

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2015年秋号
編集・発行人 高橋経一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

をお願いしており、十二月一日ご来館分から予約の受付を承ります。
▼貨幣博物館で、お金を見て、学んで、皆さんでお金の話をしませんか。
※十一月二十日まで休館中です。最新のリニューアル
アル関連情報、開館時間、休館日等の情報は貨幣博物館HPをご覧ください。
<http://www.imes.boj.or.jp/cm/>
【入館料】無料



【所在地】東京都中央区日本橋本石町一三一一（日本銀行分館内）

【お問い合わせ先】

〇三—三二七—三〇三七

「にちぎん体験二〇一五」開催決定

▼日本銀行本店では、今年も「にちぎん体験二〇一五」を開催します。

①レクチャー付き見学ツアー（要予約）：国の重要文化財に指定されている本館や実際に業務を行っている新館営業場への見学ツアーに加え、日銀の仕事をテーマに講座

を行います。

②企画展（予約不要・入退場自由）：本館内の特設展示室において、支店の歴史や建物などについてご紹介

いたします。

③「見学付き市民講座（要予約）」：日銀職員が講師を務め、お金をめぐる話題などをテーマに講座を行います。また、講座の後には、旧地下金庫と旧営業場の見学にご案内

いたします。

【プログラムごとの開催日時】

①：十月二十六～二十九日、十一月二日、四日

②・③：十月三十一日・十一月一日

▼詳しい内容や予約方法などについては、日銀HPをご覧ください。

▼この機会に、ぜひ日本銀行にお越しください。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

【お問い合わせ先】

情報サービス局総務企画グループ
〇三—三二七—二五六八

